



学校図書館セット貸出し

世界を知るセット

Meet the World

小学校高学年向

国立国会図書館

国際子ども図書館

この冊子は、学校図書館セット貸出し
「世界を知るセット」（小学校高学年向）
の解説です。

児童生徒を指導する際の参考にご利用
ください。

ものしり絵本国旗

ひらいふみと 作・絵 田中義一 監修

PHP 研究所 2005 年

2005 年 8 月現在の外務省ホームページの情報をもとに、世界 192 カ国の国旗を紹介した本。各国の位置が地図上で確認できるようになっているほか、首都、面積、人口などの基本情報も記載されている。巻末には国旗の色やモチーフなどデザイン別にグループ分けをした表があり、よく似た国旗の比較などもできて興味深い。索引は国名の 50 音順。絵本や物語を読んだあとで、興味を持った国について調べてみるのも面白いだろう。

文化の世界地図（くらべてわかる世界地図 5）

藤田千枝 編 坂口美佳子 著

大月書店 2005 年

世界の実情を、統計データとともに地図上で表したシリーズの第 5 巻。世界の文化的状況を、「人種」「言葉」「宗教」などの大枠から、「テレビ」「インターネット」「携帯電話」「観光」など身近な枠組みに至るまで、さまざまな角度のデータを取り上げており、視覚的に世界をとらえることができる。葬式のしきたりやマナー、タブーなどについても触れられており、興味深い。最新の統計は別資料で補うとよい。

まるいちきゅうのまるいちにち

エリック・カールほか 作 安野光雅 編

童話屋 1986 年

世界 8 カ国の絵本作家たちが、グリニッジ標準時 1 月 1 日午前 0 時から丸一日間の、8 カ国の子どもたちそれぞれの様子を描いた絵本。見開き 2 ページが 8 つの枠に区切られており、同時刻の子どもたちの様子を一度に見比べてみるができる。日本の元日の朝 9 時に、他の国の子どもたちはいったい何をしているだろう。昼夜も違えば季節も違う、地球上のまだ見ぬ国々。地球儀などで実際にその国の位置を確かめながら読むと、より理解が深まるだろう。

いっぼんの鉛筆のむこうに

谷川俊太郎 文 坂井信彦ほか 写真 堀内誠一 絵

福音館書店 1989 年

私たちの身近にある鉛筆。鉛筆ができるまでを取り上げ、その過程をになうスリランカ、アメリカ、メキシコ、日本の人々の仕事、家族、生活を写真とイラストをまじえて紹介している。たくさんの人が関わってはじめて一本の鉛筆ができることを実感できる。鉛筆から日本と世界のつながりが見えてくる。

砂漠（世界の地理トップ 10）

ニール・モリス 著 江川多喜雄 日本語版監修

鈴木出版 1999 年

「洞窟」、「島」、「山脈」など 8 つの地理的トピックを取り上げ、それぞれ上位 10 位を紹介した「世界の地理トップ 10」シリーズ全 8 巻の砂漠編。世界の大きな砂漠上位 10 位それぞれの地形的特徴や、そこに生息する動植物、人々の暮らしの様子などが紹介されている。巻頭には砂漠の位置と規模を示した世界地図があり、巻末には用語解説と索引が付されている。

せかいのひとびと

ピーター・スピアー えとぶん 松川真弓 やく

評論社 1982 年

大型絵本の見開きいっぱい、地球上の様々な場所で様々な生活が繰り広げられている様子が緻密に描きこまれており圧巻である。子どもたちは、世界の人々の驚くばかりの多様性に圧倒されることであろう。原書は 1980 年の出版であるため、統計上の数字については現在のデータで補足する必要がある。ちなみに、2005 年の世界人口は約 64 億人（『世界人口白書 2005』より）。

地球人記

小松義夫 著

福音館書店 2001 年

同じ地球に生きる人々の日常生活を撮影した写真集。「働く・動く」「学ぶ・遊ぶ」「着る・飾る」「住む・くつろぐ」「食べる・飲む」「町・村の風景」「人間」の 7 つのテーマの下、豊富な写真で多様な文化を紹介している。臨場感あふれる写真に世界中を旅した気分になる。姉

妹編に、『地球生活記』*がある。

*:セットには含まれておりません。お近くの公共図書館等をご利用ください。

写真で見る世界の人びと

ディーナ・フリーマン 総監修

ポプラ社 2005年

世界の人々の暮らしを約 1000 点もの豊富な写真を使って紹介した本。まず世界を 6 つの地域に分けて概説し、さらに国、文化、習慣等の違いによって分類したのち、それぞれの民族、国民、住民について見開きで解説するという構成。眺めているだけで楽しいが、社会人類学者が総監修をしており、説明文もかなり読み応えがある。絵本『せかいのひとびと』*で人々の多様性に興味をひかれた子どもに、より詳しく調べるためのツールとして紹介するのもよい。巻末に索引があるので、キーワードから調べることができる。

*:セットに含まれております。

絵本アフリカの人びと

ディロン夫妻 絵 マスグローブ 文 西江雅之 訳

偕成社 1982年

アフリカには何百もの異なる部族民が住み、豊かな伝統、習慣を形成しているが、その中でも 26 部族を選んで、それぞれが大切に守っている習慣を描いた絵本。風土を伝える美しい絵と解説が部族名の ABC 順に並んでおり、アフリカに暮らす人々の多様性をおのずと感ずることができる。アメリカの最も優れた絵本に与えられるコルデコット賞を 1977 年度に受賞。さらに、ディロン夫妻はそれまでの業績が評価され、1978 年度の国際アンデルセン賞画家賞を受けている。

はがぬけたらどうするの？

セルビー・ビーラー 文 ブライアン・カラス 絵 こだまともこ 訳

石川烈 監修

フレーベル館 1999年

乳歯が抜けた時、抜けた歯をどうするか。世界中から集めた、66 の言い伝えや風習を紹介した絵本。巻末には歯のことが分かる知識のページがある。歯が生え変わる時期の子どもたちが異文化に触れるのに最適である。

民族衣装絵事典

高橋晴子 監修 MCD プロジェクト 編

PHP 研究所 2006年

衣服だけでなく、帽子、靴、指輪などのアクセサリも含めた世界各地の民族衣装を紹介した写真事典。衣装にまつわる歴史、風俗、習慣も知ることができる。事典をながめながらアジア、ヨーロッパ、中東、アフリカ、南北アメリカ、と民族衣装の旅をしていくと、遠い国のことが身近に感じられるようになってくる。本著には国立民族学博物館（みんぱく）が協力している。

食べもの記

森枝卓士 著

福音館書店 2001年

人間の生存に欠かせない行為、食。世界各地で、風土に応じた様々な食文化が発展してきた。世界の食材、料理、食の風景を捉えたたくさんの写真で、食文化の多様さが実感できる。同じ食材でも、加工方法や調理方法の違いにより、独自の料理になる。豊富な食材と食習慣の違いに、驚きの連続である。

手で食べる？

森枝卓士 文・写真

福音館書店 2005年

『食べもの記』*の著者による作品。手で食べたり、箸やナイフ、フォーク、スプーンを使ったりと、世界にはいろいろな食べ方があり、道具もさまざま。なぜ、こんな食べ方をするのだろうか。子どもたちが実際にそれぞれの食べ方を体験しながら、食文化を検証していく。単に食事風景の紹介にとどまらず、歴史にも触れられており、興味深かつ魅力的な構成になっている。

*:セットに含まれております。

アジアのお菓子 2 (どんな国？どんな味？世界のお菓子 2)

中東・アフリカのお菓子 (どんな国？どんな味？世界のお菓子 3)

服部幸應, 服部津貴子 監修・著
岩崎書店 2005年

子どもたちが大好きなお菓子。世界中のお菓子を紹介する全6冊のシリーズの第2巻は、東南アジアや南アジアに加え、太平洋やカリブ海の島国のトロピカル・フルーツを使ったお菓子を取り上げている。ハロハロやラッシーなど、日本で既になじみ深い甘味も多い。第3巻は、普段あまり見慣れない中東、アフリカの伝統的なお菓子が紹介されている。料理学校の先生による監修で、食材や作り方についての説明があり、実際に作ってみることができる。各国の伝統や文化についてのコラムも興味深い。第1巻は日本、韓国、中国と一部の東南アジア、第4・5巻はヨーロッパ、第6巻は南北アメリカである。

世界あちこちゆかいな家めぐり

小松義夫 文・写真 西山晶 絵
福音館書店 2004年

『地球人記』*の著者でもある小松義夫氏は、おもしろい形の家をさがして世界中を訪れている。本書では、著者が訪ねた家とその家で暮らす人々の様子が紹介されている。モンゴルのゲル、中国の土楼など10の地域の家がとりあげられ、家の外観写真と内部のイラストが対になっている。内装、間取り、生活習慣などが分かるので、じっくりと楽しんで欲しい。

*: セットに含まれております。

世界の建物たんけん図鑑

パオロ・ドナティ イラスト フィリップ・ウィルキンソン 文
内田加奈子 訳
集文社 1993年

古代のクノッソス宮殿から現代のトロント・スカイドームまで、世界の歴史的・特徴的な21の建築物の内部と構造を、イラストと共に解説した大版絵本。建造物の建てられた背景や使われ方、特徴などが詳しく説明されている。タイムスリップして往時の建物を訪れてみたい。建物の現在の姿も写真で紹介されている。

世界の人と友だちになろう(体験と交流でつくる「総合」 5)

千葉昇 監修 遠藤喜代子 文

ポプラ社 2001年

総合的な学習の時間のテーマを紹介するシリーズ。世界を知るために、地域に住む外国の人との交流会を開くことを提案し、言葉や遊び、スポーツ、料理などを通じて行う交流方法を紹介する。さらに、民族衣装や舞踊、楽器などの体験を通して外国の文化にふれることを勧める。文化交流授業をする上で大変参考になるであろう。

韓国の友だち

佐藤郡衛 監修 伊地知英信 著
学校図書 2000年

韓国の子どもたちの暮らしを中心に、韓国の現代社会を概説する。学校生活や遊び、食べ物など子どもたちに親しみやすいテーマのほか、結婚式やオンドルと呼ばれる床暖房など、韓国の様々な文化に触れることができる。

中国の友だち

佐藤郡衛 監修
学校図書 2000年

中国最大の商工業都市上海の小学校に通う5年生の楊くんの生活を中心に、中国の子どもの暮らしを紹介する。学校の様子、遊び、お菓子など、子どもが興味を持つ題材を取り上げている。町の探検では、太極拳をするお年寄り、いろいろな食材を売っている市場、屋台、茶館など中国の人々の暮らしが実感できる。農村についても少し紹介されている。

アメリカの友だち

佐藤郡衛 監修
学校図書 2000年

シカゴの日本人学校の様子や、アメリカ人の子どもの日常の様子を描く。インチやポンド、華氏など、日本ではなじみのない単位についての説明のほか、都市の暮らしや農村の暮らしなども概説されている。写真やイラストも豊富で、理解しやすい。

ボスニア(世界の家族 5)

エチオピア (世界の家族 7)

ジュリア・ウォーターロー 著 今西大, 今西智子 訳
鈴木出版 2000年

世界8カ国の、ある一般的な家庭の暮らしぶりを紹介したシリーズ。第5巻は東欧のボスニア・ヘルツェゴビナ、第7巻はアフリカのエチオピア。ボスニア編では、1992年から93年の戦争当時の様子を取り上げているが、ことさら悲惨さを強調することはなく、平凡な家族の平凡な生活を淡々と紹介することにより、ごく普通の人間を巻きこむ戦争というものがかえって生々しく感じられる。一方、エチオピア編は内戦や飢饉を乗り越えた後の時代。日本とは全く違う生活の様子が興味深く、貧しく忙しい毎日の中の穏やかで明るい家族の表情が印象的である。それぞれ、基本的な国のデータや歴史年表が付されているほか、巻末には参考資料が紹介されているので、調べ学習に役立つ。セットに含まれている2冊のほかは、第1巻中国、第2巻ベトナム、第3巻イラク、第4巻ドイツ、第6巻ブラジル、第8巻南アメリカ。

世界のあいさつ

長新太 さく
福音館書店 1989年

おじさんとねこが挨拶を調べに世界を旅するという、漫画風の絵でさまざまな国の挨拶の仕方を紹介した楽しい本。言葉よりも、しぐさや行動に注目している。他の国の人々から見れば日本人がするおじぎの挨拶も珍しいらしいが、抱き合って相手のにおいをかいだり、舌を出したり、相手の手首を握ったり、などという挨拶の仕方は、大変興味深く、異文化を理解する上で助けとなるだろう。

سلام (ペルシャ語)

サラーム

Sazokar Publishing (انتشارات سازوکار) 1998

イランの絵本。タイトルの「サラーム」は、もともとは「平安」という意味だが、イランでは挨拶言葉として広く使われている。男の子が朝目覚めてから小学校に行くまで、家族や商店の人たちに「サラーム」と挨拶をする。人々は笑顔で男の子を振り返る。ほとんどがイラストの絵本で、日常のひとこまが描かれているため、とても親しみや

すい。初刷は1985年。

ラテン文字と世界の言葉 (世界の文字と言葉入門 16)

町田和彦 監修・著
小峰書店 2004年

世界の文字と言葉を紹介するシリーズの最終巻。世界の多くの地域で使われているラテン文字(ABCなど)について、文字の歴史、世界への広がり方、言語による読み方の違いなどを紹介する。解説が進む未解説の文字などにも触れられており、解説中のマヤ文字50音表を使って、実際に自分の名前を書いてみるができる。シリーズのまとめとして、文字の世界地図と、世界の言語を語族などに仲間分けした解説がある。個々の文字と言葉に興味を持ったら、シリーズの各巻も参照したい。

अ आ इ और क ख ग (ヒンディー語)

ア、アー、イとカ、カ、ガ*

Vinita Krshna Girija Rani Asthana Jagdis Josi
c1998

出版者の「児童文学作家・イラストレーター協会(AWIC)」はインドで使用される各言語の識字絵本を作成している機関。ヒンディー語版であるこの本ではアナル(ざくろ)からハルワーイー(菓子屋)まで、生活に身近な人、果物、動物、植物などの短い詩でヒンディー語の文字が学べる。インド人画家によるインドの風俗を表した絵も興味深い。

*: タイトルは参考訳です

世界の外あそび

こどもくらぶ 編
今人舎 2004年

「大人と子どものあそびの教科書」シリーズの1冊。みんなが参加して、楽しむことができる世界のさまざまな外あそびが紹介されている。「にげて、にげて!おにごっこ」「みんなで協力!チーム対抗ゲーム」などの7つのカテゴリーのもと、各国のあそびが掲載されており、最初に日本でのゲームのやり方が書かれているため、日本と各国のあ

そびの違いを認識しやすい。各ゲームのやり方が図入りで説明されているので、実際にあそびを体験しながら異文化に触れてみるとよいだろう。

世界のじゃんけん

こどもくらぶ 編

今人舎 2002年

「大人と子どものあそびの教科書」シリーズの1冊。「となりの国のじゃんけん」「東南アジアのじゃんけん」など地域ごとに各国のじゃんけんが紹介されており、子どもたちにとってたいへん身近なじゃんけんあそびを通じて、国際理解を深めていくことができる。日本のグー、チョキ、パーにあたる手の形の意味は各国さまざま。また日本のように「グー、チョキ、パー」の3すくみではなく、4すくみ、5すくみの国や、じゃんけんをしない国もある。各国の比較を楽しむと同時に、機会があれば出身国のじゃんけんを話題にしながら国際交流を試みるのもよいだろう。

なぞなぞ 100 このほん

M.ブラートフ 採集 松谷さやか 編・訳 M.ミトゥーリチ 絵

福音館書店 1994年

「うまれたときからひげがはえているのはだれ?」、答えは「ねこ」。旧ソ連の昔話研究者が編んだ本より、100個のなぞなぞを選び、ロシアの代表的な画家であるミトゥーリチがイラストを描いた絵本。少し難しいなぞなぞもあるが、イラストが大きなヒントとなっている。答えはページの端に逆さまに記されている。巻末にはどの民族のなぞなぞかを示した一覧がある。

多文化子どもの歌集

多文化共生センター 編

多文化共生センター 2000年

在日外国人支援を目的としたNPOである多文化共生センターが編集した子どもの歌の歌集。在日外国人の母語として多い中国語、スペイン語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語の5カ国語の歌全15曲が収録されている。楽譜とカタカナのルビが付いた原語の歌詞の

ほか、日本語の訳詞を掲載。巻末に紹介されているホームページのURLは現在使われておらず、2008年3月現在アクセス可能なURLは、<http://www.tabunka.jp/>。

世界のお金事典

平井美帆 文

汐文社 2006年

世界103カ国とEU（ヨーロッパ連合）の紙幣、貨幣を写真とイラストで紹介した本。紙幣には人物、建造物、名所旧跡、歴史、自然、動物、特産品などが描かれており、見ているだけで興味深い。紙幣のデザイン、貨幣の単位についての簡単な説明のほか、各国の概要が付されている。地域別に配列されており、目次は「地域別」と「国名五十音別」の2種類。

北・東ヨーロッパの鉄道

秋山芳弘 著 こどもくらぶ 編

旺文社 2006年

世界の鉄道と各地の暮らし、文化を紹介するシリーズの1冊。本書では「北欧4か国」、スウェーデン・ノルウェー・フィンランド・デンマークに加え、東ヨーロッパの国々の鉄道がとりあげられている。著者はこの本に登場するすべての列車に乗車しており、写真は実際に乗った気分になれるほど臨場感にあふれている。ノルウェーのベルゲン急行、シグナチュール、ノルド・ピレン（北の矢）号などのほか、運転士以外は駅員も車掌もすべて子どもたちという「子ども鉄道」も興味深い。巻末には各国の面積や人口、鉄道規模を掲載したデータが付されている。

クジラがとれた日（シリーズ自然いのちひと 1）

小島曠太郎、えがみともこ 写真・文

ポプラ社 2001年

インドネシアは、たくさんの大きな島と小さな島から成り立っている。その中のある小さな島では、村人たちは昔からクジラやサメを捕って生活してきた。この本では、クジラ捕りの1日の様子がびっくりするほど生き生きとした写真で描かれている。村人たちが400年間続

けてきた漁の方法と、今でもそれを続ける理由を知ることによって、生きるために食べなくてはならない私たち人間が、知らず知らずのうちに日々受けている自然の深い恵みに気づかされる。

アラスカたんけん記

星野道夫 文・写真

福音館書店 1990年

アラスカに憧れた著者が、度々アラスカを訪れて記した探検記。人々の暮らしや自然、動物たちのようすなど、著者が体験したできごとや風景を、豊富な写真と語りかけるような文章で伝えてくれる。1日中日が沈まない白夜の夏と、ほとんど太陽を見ることのない極寒の冬。その暗い空を彩るオーロラの光。厳しい自然と人をひきつけるアラスカの魅力に触れることができる1冊。

ジス・イズ・パリ

ミロスラフ・サセック 著 松浦弥太郎 訳

ブルース・インターアクションズ 2004年

世界の都市を描いた絵本「ジス・イズ」シリーズの第1弾。エッフェル塔などの観光名所はもちろん、旅では見過ごしがちな日常風景や街の人々の様子を紹介したパリの街案内。歴史についても触れられており、パリの街を実際に歩いた気分になれる。落ち着いた色合いのユーモラスな絵がパリの魅力を引き出している。原書の初版は1959年だが、巻末に現在の様子が文章で補われている。

ミラクルバナナ

ジョルジュ・キャストラ、ロドニィ・サン・エロワ 作

ルイジアヌ・サン・フルラン 絵 加古里子 文

学習研究社 2001年

バナナの紙でできた絵本。バナナは、東南アジアや南米など、暑い地域で育つ多年生草本、つまり「草」である。茎の丈は高いもので10mに達するが、収穫後は切り倒され、捨てられる運命にある。そんなバナナの茎を原料に、南米のハイチと日本の共同プロジェクトにより、古代和紙の製法を用いて、この本のバナナ紙は作られた。ぜひその感触を楽しんでもらいたい。ちなみに、2005年のバナナ生産量1位は

インド、2位ブラジル、3位中国。

絵で見るナイル川ものがたり

ステイーブ・ヌーン 絵 アン・ミラード 文 松沢あさか 訳

さ・え・ら書房 2004年

世界最長の川ナイル川。ビクトリア湖に流れを発し、アフリカ大陸を南から北へ、全長約7,000kmを旅して地中海に注ぎ込む。また、世界最古の文明であるエジプト文明を育み、現在に至るまでの長い時間を旅する川でもある。この本は、水源から河口までを辿りながら、ナイル川の時間旅行を自在に楽しむという構成になっている。見開きいっぱいに細かに描き込まれた絵には、どのページにもどこかに「ペリカン」が登場するというおもしろいお楽しみがある。歴史の流れを把握しづらい面はあるが、気軽に眺めて楽しみたい。著者のアン・ミラードは、エジプト遺跡発掘にも従事したという経験を持つ。

こども世界の民話 上・下

内田莉莎子 ほか 著

実業之日本社 1995年

本書は語りのテキストとしてよく使われている『子どもに聞かせる世界の民話』全81話の中から、約半数の42話を選びすぐり、子どもたちが自分で読みやすいように文章を練り直したもの。世界各地の昔話を優れた翻訳で楽しむことができる。活字が大きく、ルビが丁寧にふられているので、本が苦手な子どもにも読みやすい。もちろん読み聞かせにも向く。

ต้นไม้ใกล้ตัว (タイ語)

身のまわりの木*

1995

第11回野間国際絵本原画コンクール奨励賞受賞作品。タイの人たちにとってたいへん身近な果物の木と、木の周りに集まる子どもたちが生き生きと描かれている。声調のあるタイ語には、発声するとおのずとリズムやメロディーが生まれるが、タイの絵本には内容より音楽的効果に主眼が置かれた韻文詩が施されているものが多い。この絵本にも果物をテーマにした韻文詩が添えられている。タイ文字の独特

な形が興味深い。

*: タイトルは参考訳です

Василиса Прекрасная (ロシア語)

うるわしのワシリーサ

Goznak (Гознак) 1994

ロシア版シンデレラ物語とも言える昔話絵本。継母や姉たちからひどいうち受けながら暮らすワシリーサ。そのワシリーサを、実母が渡した人形が助け、最後にワシリーサは王さまの妃になる。

この話に挿絵を描いたイワン・ビリービン (1986-1942) は、ドイツのユーゲント様式とロシアの民間伝承の文化を参考にして、「ビリービン様式」と呼ばれる独自の華麗な画風を生み出した。本書は 20 世紀初頭に出版された初版本の持つ重厚な雰囲気を与えている。

*: 『うるわしのワシリーサ』または『美しい王女マリヤ・モレーヴナ』のどちらかがセットに含まれています。

Марья Моревна (ロシア語)

美しい王女マリヤ・モレーヴナ

Goznak (Гознак) 1994

ロシア昔話の代表的人物が揃って登場する昔話絵本。王子イワンは、恐ろしい魔物、不死身のコシチュイに王女マリヤ・モレーヴナをさらわれる。一度はコシチュイに殺されたイワンは、死の水と命の水により生き返り、鬼婆バーバ・ヤガーの駿馬を手に入れる。この馬の助けでイワンはコシチュイを殺し、マリヤを取り戻し末永く幸せに暮らす。この話に挿絵を描いたイワン・ビリービン (1986-1942) は、ドイツのユーゲント様式とロシアの民間伝承の文化を参考にして、「ビリービン様式」と呼ばれる独自の華麗な画風を生み出した。本書は 20 世紀初頭に出版された初版本の持つ重厚な雰囲気を与えている。

*: 『うるわしのワシリーサ』または『美しい王女マリヤ・モレーヴナ』のどちらかがセットに含まれています。

Ellsworth's extraordinary electric ears and other amazing alphabet anecdotes (英語)

びっくりアルファベット小話集*

Valorie Fisher

Atheneum Books for Young Readers c2003

アメリカのアルファベット絵本。タイトルや本文は単語の頭文字を揃えた言葉遊びになっており、そのナンセンスな言葉遊びの世界を、人形を使ってビジュアル化し、写真絵本に仕立てたもの。ユーモラスな写真を眺めているだけでも楽しいが、単語の意味を解説してあげるとより一層面白みが増すだろう。ALT (英語指導助手) の先生と一緒に楽しむのもよい。

*: タイトルは参考訳です

Noitaluvut (フィンランド語)

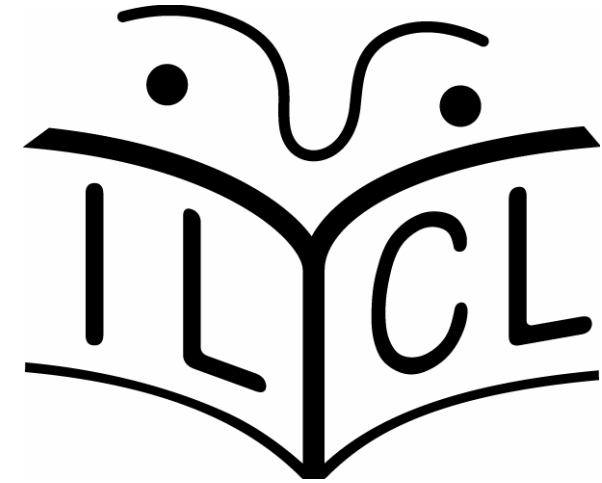
魔女の数字*

Tuula Korolainen Christel Ronns

Tammi c2004

フィンランドの数字の絵本。クリステル・レンスが描く鼻の高い魔女の絵がユーモラスで楽しい。著者トゥーラ・コロライネンは児童文学作家で、詩集や知識の絵本などを手がけている。また他の作品で 2005 年フィンランドニア・ジュニア賞を受賞している。

*: タイトルは参考訳です



子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！

国立国会図書館 国際子ども図書館
児童サービス課 企画推進係
〒110-0007
東京都台東区上野公園 12-49
TEL : 03 - 3827 - 2053
URL : <http://www.kodomo.go.jp/>

2009年9月1日

※この冊子は返却する必要はありません。